

# 岩手郡医報

高橋 孝先生書



音と光のショー 間に浮かび上がるスфинクスとピラミット

## Contents

### 平成15年度社団法人岩手郡医師会通常総会

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| ● 会長挨拶の要旨                 | 高橋牧之介               |
| 各担当部会報告                   |                     |
| ● 岩手県医師会理事報告              | 西島 康之               |
| ● 総務担当理事報告要旨              | 及川 忠人               |
| ● 産業医担当理事報告               | 八角 正司               |
| ● 平成15年度都市医師会長懇談会         | 高橋 孝                |
| ● 医師連盟担当理事報告 第2回          | 日本医師連盟若手会員研修会 篠村 達雅 |
| ● 学校医部会報告                 | 上原 充郎               |
| ● 広報担当理事報告                | 柄内 秀彦               |
| ● 勤務医部会担当理事報告             | 岡田 行生               |
| ● 特別講演 岩手県医師会長 石川 育成先生 要旨 | 紺野 敏昭               |
| ● 懇親会                     |                     |
| ● 「新しくなった心肺蘇生法」           | 西根町 嶋 信             |
| ● 第11回岩手県北周産期研究会報告        | 岩手町 坂井 博毅           |
| ● 編集後記                    |                     |

2003.7.No.77  
岩手郡  
医師会

## 平成15年度社団法人岩手郡医師会通常総会

平成15年度の社団法人岩手郡医師会通常総会は平成15年7月5日(土)午後3時30分より岩手県医師会館3階視聴覚室で開催された。



岩手県医師会館3階 総会会場



高橋会長挨拶



総会会場風景

### 会長挨拶の要旨

昨年は、会員の皆様医療関係者にとっては大変な年でした。4月史上初の診療報酬マイナス改定は公表以上の大幅ダウンをきたし、さらに、10月の健保法改正の実施により、医療費の三要素、総件数の大幅なダウンをまねき、医療費特に入院外医療費二桁の減少を來した。これに追い打ちをかけるようにわれわれ医師会をはじめ各団体の3割負担凍結運動もついに実らず、三割り負担が実施されマイナス改定とともに医業経営悪化の要因はますます拡大する結果を招くことになった。

昨年の医療機関の倒産件数は47件で、件数・

負担金額とも過去最悪のものでした。その理由として今まで放漫經營によるものが多くたったのが、医業經營不振によるものが目立ちます。今後、大幅に増えることが懸念される。

21世紀を迎えてはや3年目。相変わらず政治と経済の混迷が続いております。失業者、自殺者はふえる一方で経済不況の回復の兆しすら見えません。それなのに、三割り負担凍結もダメ、史上初のマイナス改定、と踏んだり蹴ったりです。

「3月30日の日曜日開催の日本医師会代議員会の報告と、6月29日の日曜日岩手県医師会総会での坪井日本医師会長の特別講演要旨の報告あり。」

このように、我々を取り巻く環境はいろいろ

の問題を抱えております。

10年前までは、誰も予想しなかった少子高齢化、高い失業率、企業倒産などが、医療保険制度に対しても大きく影響しはじめた。このことは不況と相まって、医療費抑制策が政府の構造改革の目玉として進められたからです。

その中で、岩手県医師会としては大きなトラブルはなかった変わりに喜ぶようなこともなかったように思います。だが、医療環境が様変わりしたためか、当医師会内も医療苦情が多くなってまいりました。さもないことでも文句をつけられますので気をつけていただきたい。15年度も大過なく順調に推移することを願っております。

私は、若手開業医の誕生と、医師会役員の若返りを熱望し続けてまいりました。最近、各医師会で役員を含む会員の健康障害が多く苦難の

年が来たのかと思いましたが、ここ数年新規開業ブームが各地で進み宿願が現実のものとなりつつあります。理想の医師会となるには、40～50代の人達が活動の主流となることによって医師会が活性化します。そして医師会に無関心で他人任せの方々にも参加してもらう努力が必要です。また高齢会員の貴重な意見を聞く必要があります。医師会活動に対する会員の意識改革・意識革命が求められている時です。

組織人が組織の中で認識すべきことは、組織が変わらずに発展して行くためには、いつも変わらなければならないと思います。創造的破壊が必要です。

当医師会組織にも益々新風が吹き込まれ、医療制度改革の旗手として医政に貢献くださることをお願いいたします。

## 岩手県医師会理事報告

副会長 西島 康之

### 第1回理事会

4月12日(土)午後3時から中会議室で、今年度第1回の理事会が開催された。会長挨拶、各担当部門別事業報告に引き続き協議が行われ、第55回岩手県医師会総会並びに第110回岩手医学会4(春季)総会の次第及び日程、総会における表彰条件が決定し、更に鷹狩副会長から事務局職員の労務管理の見直しについての説明があり承認された。

なお、思春期保健パンフレットの活用、学童の結核検診の内容変更、医療総合相談体制、イラク戦争の早期完全終結を求める声明について、SARSへの対応については引き続き開催される第1回都市医師会長協議会の議題と重複するので、同協議会で検討することを認めた上で閉会した。



### 第2回理事会

6月11日(水)午後3時30分から中会議室で開催された。石川会長の挨拶に引き続き各担当別事業の状況について(4月12日以降)が行われた。

協議は①第55回岩手県医師会総会・第110回岩手医学会春季総会について、②岩手県医師会総会における表彰受賞者について、③平成14年度岩手県医師会一般会計歳入歳出決算について、④平成15年度岩手県医師会一般会計歳入歳出第1次補正予算について、⑤第146回岩手県医師会臨時代議員会について、⑥医療パスポートについて、の6議題が上程されすべて原案通り承認された。決算及び補正予算については6月21日の代議員会で可決されれば決定する。また話題提供として小原紀彰常任理事から岩手県医師会勤務医師生活協同組合設立についての説明があった。

以上理事報告といたします。

## 総務担当理事 報告要旨 及川 忠人

これまでの行事については3月22日の通常総会の後、下記の如くに2回の理事会が開催されております。

3月22日(土)岩手郡医師会通常総会 平成15年度計画および同年度予算案承認



4月22日(火)郡医師会理事会  
6月10日(火)郡医師会理事会  
また総務として、その他の参加行事をあげますと、

6月9日(月)盛岡地域保健医療計画推進連絡会が盛岡市総合福祉センターで開催されております。保健医療福祉団体、各11市町村の保健福祉課長クラスと県および盛岡保健所の実務者レベルの約50名の連絡会であった。岩手郡医師会主要事業の説明等いずれも平成14年度15年度の事業の継続実施中の内容を説明した。その内容の概略は、地域医療の推進(健康教育事業を通じて、かかりつけ医機能の推進を行う病診連携・広報活動など)在宅当番医制度事業の推進(休祭日診療 当番制実施を推進する)救急災害対策(緊急災害対策事業の充実-訓練参加-情報システムの構築、岩手山火山噴火に対する対応)生活習慣病対策(生活習慣病予防の知識の普及)思春期保健(学校で思春期保健教室を開催)健康教育(各町村で健康講座を開催する)等から構成されていた。この連絡会の目的や今後の在りかた等などが合わせて論議された。計画Plan実施do評価SeeのSeeの面を強化して根気よく積み上げていくことが必要であることで大方の意見が一致した。

さらに6月30日(月)には盛岡地域メディカルコントロール協議会が中央消防署にて開催され、救命救急士の救急活動についての事後検証、包括的指示の下でおこなう除細動のプロトコ

ルおよび救命救急士の病院研修についての検討がなされ、原案の通り承認された。

## 産業医担当理事報告 八角 正司

第62回産業医部会幹事会が5月24日(土)岩手県医師会館で行われた。

平成15年度産業保健事業計画として下記の6項目が確認された。

- (1) 産業医活動の充実  
(職場巡視・安全衛生委員会への出席)
- (2) 産業医研修事業の推進
- (3) 地域産業保健センターの機能強化
- (4) 岩手産業保健推進センターとの連携
- (5) 産業保健連絡協議会の開催
- (6) 地域保健との連携

日本医師会認定産業医の資格のない先生は所定の単位を取得し認定資格を得るようお願いします。

尚、平成15年4月1日現在の岩手県医師会認定産業医は590名(昨年より49名増)。

岩手郡医師会認定産業医は43名です。





平成15年6月11日  
(水) 岩手県医師会館  
2階 第2会議室

高橋牧之介岩手郡医師会会长が県医師会副会长としてご出席になりましたので、高橋孝が会長代理で出席しました。

**(1) 平成14年度会長懇談会で協議した事項のその後の経過について**

(イ) インフルエンザワクチン接種

(ロ) 看護師等医療関係者の安全教育実施時は診療所の従業員も参加出来る時間帯に開催するよう検討する。

**(2) SARS診療体制に関する要望について**

SARSが疑われた時、受診希望のときに、どのような手順で、どこの医療機関を訪ねるか、現在は保健所に訪ねてからだが、もっと具体的な手順を県民に開示していただきたい。陰圧病室の早急の整備を県に要望する。

**(3) 学校検診に伴う結核検診の進捗状況について**

岩手郡は結核対策委員会の人選、設置は終わったが未だ稼働していないと報告をした、未だ設置していない市町村もありました。

**(4) 医療パスポート**

縦13センチ、横9センチのわたしの『かかりつけ医』はこんな先生たちです。と表書きがあって裏には、いま飲んでいる薬はダブっていませんか？薬をダブって飲むと健康を害します。『かかりつけ医に相談しましょう』医療費のむだを省くことは、医師と患者の共同作業です。どんな小さな疑問でも、かかりつけ医に気軽に相談して健康に気をつけましょう。

このように小さな手帳です。血圧、糖尿病など、又、老人手帳など多くの手帳が氾濫しているが、この手帳を有効に使うことが我々の自衛手段とも考えられ、非常に良い制度と思い

ます。すでに花巻医師会と釜石医師会は試行済みで宮古医師会は試行中です。特に薬剤のアレルギーについて書いてほしいとのことでした。

**岩手郡医師会と岩手郡歯科医師会との懇談会**

平成15年6月19日(木)「山里」午後7時より

**副会長 高橋 孝**

医師会、高橋会長、西島副会長、八角、上原理事、高橋歯科医師会、鈴木会長、谷藤副会長、千葉副会長、三浦専務理事が出席しました。

(1) 昭和62年に近似の経済圏にある、岩手郡において学校保健の均等化、情報交換を目的として設立された岩手郡学校保健会は、今存続の意義が薄れ、検査、教育も均等化され発足当時の目的は十二分に果たし得たので解散するか、又今後は行政当局がこの会に積極的に協力するべき等々の意見がでて結論は次回に持ち越した。

(2) 歯科医師会より医師会と医療上の緊密な情報交換をお願いしたい旨のお話しがありました。医師、歯科医師と多くの患者さんが両方の治療を受けていることが多いと思います。その時、血圧とか抗血小板剤の服用状況。心電図の診療情報提供をお願いしたい旨のお話しがありましたので、会員の皆さんのご協力をお願いします。

**生涯教育の申告についてのお願い**

**生涯教育委員会委員 高橋 孝**

今年度も平成15年5月1日号、6月15日号、7月5日号の日医雑誌の論文を読んで自己申告する制度が始まっています。地区の役員には大変ご迷惑をお掛けし連絡をお願いしていますし、会員の皆さんにとって、その論文が医療水準であったり、又この申告は大きな『医師会活動』ですのでよろしくお願いします。

ちなみに下記は13年度と14年度の生涯教育申告提出状況です。

## 都市医師会別提出状況

平成15年6月16日現在

※会員数は平成15年3月31日現在の日医会員

	A1会員	A2・B会員	C会員	合計	非会員	13年度 申告率
盛岡市	会員数 240	258	2	500	11	38.5
	申告数 139	68	1	208		
	% 57.9	26.4	50.0	41.6		
岩手郡	会員数 59	43	0	102	1	57.6
	申告数 54	26		80		
	% 91.5	60.5		78.4		
紫波郡	会員数 34	17	0	51	2	100
	申告数 34	15		49		
	% 100	88.2		96.1		
花巻市	会員数 58	62	0	120	9	89.1
	申告数 58	55		113		
	% 100	88.7		94.1		
北上	会員数 58	55	0	113	10	98.2
	申告数 56	55		111		
	% 96.6	100		98.2		
水沢	会員数 60	47	0	107		
	申告数 57	42		99	2	94.3
	% 95.0	89.4		92.5		
江刺市	会員数 13	7	0	20		
	申告数 10	7		17	4	90.5
	% 76.9	100		85.0		
一関市	会員数 52	48	0	100		
	申告数 51	48		99	5	95.2
	% 98.1	100		99.0		

	A1会員	A2・B会員	C会員	合計	非会員	13年度 申告率
東磐井郡	会員数 13	22	0	35	1	64.3
	申告数 11	18		29		
	% 84.6	81.8		82.9		
気仙	会員数 33	24	0	57	5	56.9
	申告数 24	18		42		
	% 72.7	75.0		73.7		
釜石	会員数 25	20	0	54	76.9	76.9
	申告数 23	20		43		
	% 92.0	69.0		79.6		
宮古	会員数 36	48	0	84	60.2	60.2
	申告数 28	24		52		
	% 77.8	50.0		61.9		
遠野市	会員数 12	9	0	21	76.9	76.9
	申告数 10	7		17		
	% 83.3	77.8		81.0		
久慈	会員数 19	25	0	44	22	97.7
	申告数 18	24		42		
	% 94.7	96.0		95.5		
二戸	会員数 14	37	0	51	9	63.0
	申告数 11	28		39		
	% 78.6	75.7		76.5		
岩手医科大学	会員数 0	99	5	104	261	88.0
	申告数	87	5	92		
	%	87.9	100	88.5		
合計	会員数 726	830	7	1563	342	67.7
	申告数 584	542	6	1132		
	% 80.4	65.3	85.7	72.4		

### 医師連盟担当理事報告

篠村 達雅

#### 第2回 日本医師連盟若手会員研修会

◎6月7日、日本医師会館に於いて開催された。衆議院300小選挙区から各2名選出の研修会で、一般会員の意見を日医執行部が直接聞きたいとい



う。(詳細は日本医師連盟ニュース6月25日発行第25号を参照して下さい。)

◎若手とは言えない人が大半の約500名の参加

◎午後3時より坪井委員長の基調講演

政府は儲かれば良いという市場原理主義と

財務官僚による医療費総額抑制を中心に医療改悪しようとしているので、阻止しなければならない。小泉内閣は経済財政諮問会議、総合規制改革会議を中心に閣議を行ない、トップダウン方式で決めてくる。バックに財務省があり、財務省がやりたい放題にやっている。自由民主党も厚生労働省も力を及ぼすことが出来ない状況である。医師会は政党にも働きかけるが、財務省にも働きかけねばならない。

国民の不安は老後と子育てにある。医療を始めとする社会保障や将来に安全と安心がなければ、国民がお金を安心して消費に使える社会はこない。国民が安心できる社会保障の合意と社会保障に対する理念、概念の改革が

必要である。

◎午後3時30分より2つのグループに分かれ討論。

日本医師会A会員は15万人いる。1人が10票集めれば150万票となる。政治の場では、大きな仕掛けを動かすには、厚生労働分野に専門的知見を持っていない国会議員をいかにして我々(武見参議院議員)の主張にそった行動をしてもらうかにかかっている。その為には大きな得票が必要との由。

情報を流してもらわないと何もわからぬ。何かが決まった結果だけではなく、経緯も知らせよ。その他多数の意見があった。

◎午後4時30分より再び全体会議

茨城県医師連盟は小泉派と反小泉派が討論している。3割負担問題は自民党はほとんどOKだったが、小泉の独断でうっちゃられた。自民党が良くて、小泉が悪いという捩れが起きている。代議員会では小泉をおろす事に決めた。日医に小泉おろしの動きはあるのか。日医:医政を決定するのは政治の場である。日本医師会は政権与党の自民党を原則として支持するが、各郡市医師会の自主性を排除しない。日医として小泉おろしという動きはない。

坪井委員長:小泉さんにおいて下さいといっているが、いわれておられる人ではないし、おろせる状況でもない。今の所我々医師会と同じ様に国民の医療を考える人を選び、国会に送り、そういう人が多く選出されれば最終的に目標に近づく事が出来る。以前は特定の代議士にお願いし依存する方法をとっていたが、今は医政も違ってきている。

代議士1人1人が地方、中央でどんな仕事をしたのか、裏も表もしっかりみて、国民の医療についてどう考えているか、評価して支持するかどうか決めてほしい。地方の代議士に直接話かけるのが地方の医師の仕事だと思う。地域で医政の研修会が開かれ、その場に代議士、日医の執行部が出席して討論する。その連合会みたいなものが中央にあれば良いと思う。と話された。

その後も種々の討論があり、発言希望者が多く、時間が充分とはいえないかった。

## 学校医部会報告

上原 充郎

第1回岩手県医師会学校医部会幹事会が平成15年6月14日(土)午後3時より開催されましたので報告いたします。石川会長の挨拶に引き続き森田理事により平成14年度事業報告が



行われ、続いて岩手県予防医学協会朴田敦志、打野巧氏により平成14年度学校検診結果が報告された。続いて森田理事により、平成15年度郡市医師会学校医部会活動テーマの報告があった。さらに、15年度の大きな行事として第15回東北学校保健・学校医大会が平成15年9月13日(土)福島県で開催、第34回全国学校保健・学校医大会が平成15年11月8日(土)青森市において開催されることが報告されました。

協議事項として平成15年度学校保健事業計画(別記)が協議された。次に第20回岩手県学校保健・学校医大会が平成16年1月18日(日)に開催され、今回の大きなテーマは「学校における今後の結核対策」「思春期保健対策パンフレット」になります。勿論一般演題の発表も例年通りありますので発表ご希望の方はお申し込みください。協議の中で今春より変更になった学校における結核対策、特に結核対策委員会のあり方、委員構成、決定事項の責任所在等につき、活発に協議されたが結論は出ず、今後、なおアンケート等で委員会のあり方を検討していく事になりました。尚、岩手郡の対策委員会の医師会側のメンバーは盛岡市保健所長、高橋医師会長、西島副会長、吉田泰二先生、上原に決定し、7月16日午後2時より、零石町役場において、委員会が開催されます。以上

## 平成15年度 学校保健事業計画

- (1) 岩手県学校保健・学校医大会の開催
- (2) 児童生徒の心の健康への取り組み
- (3) 思春期保健への取り組み
- (4) 小児期における生活習慣病予防対策
- (5) 学校保健委員会活動の推進
- (6) 幼稚園・保育園医の組織化
- (7) 学校保健関係団体との連携
- (8) 母子保健との連携強化

### 平成15年度結核対策委員会 開催結果について（報告）

上原 充郎

平成15年度第1回岩手郡小・中学校結核対策委員会が7月16日開催されましたのでご報告いたします。今回が改定後初めての委員会のため、冒頭、この委員会のあり方、方向づけなどが議論された。その結果次のように結論づけられたのでご報告いたします。なお、委員会を開催する度に改革の必要がありうると考えられます。

記

#### 1. 検討委員会の役割

校医は、各小、中学校において内科検診の折、問診票に基づき次の点に留意し診察する。

##### イ. BCG未接種児童生徒

ロ. 家族に結核罹患者があり、その者と接触があった児童生徒

##### ハ. 結核罹患率の高い国に居住した児童生徒

ニ. 以上の3点に付き吟味し、さらに校医が必要と判断した児童生徒に付き、かかりつけ医あるいは専門医により必要な精密検査の結果の判断に困難を生じた場合「要精密」として結核対策委員会に提出する。

#### 2. 1. に基づいて、各町村から今回提出された児童生徒について検討した結果「要精密」児童生徒を別紙「結核対策委員会での検討一覧」の通りご報告いたします。

### 3. 今後の結核対策委員会の開催について

次回からの結核対策委員会には、1.により判断に困難を生じた児童生徒のレントゲン写真、その他精密検査の結果を添えて、各町村の教育委員会を通じて提出することとする。

### 4. この結核対策委員会の事務局は、岩手郡地区学校保健会事務局のある町村の教育委員会とし、持ち回りとする。

### 5. この結核対策委員会の構成員は文部科学省の通達の通りとする。

### 広報担当理事報告

橋内 秀彦



平成15年5月31日14時より、岩手県医師会館中会議室にて、広報委員・いわて医報編集委員連絡協議会が、開催されました。

石川県医師会々長の挨拶で始まり、報告事項として

#### (1) 平成14年度事業状況について

1. いわて医報編集委員会(毎月第一木曜日)
2. いわて医報発行
3. 広報委員、いわて医報編集委員連絡協議会(02・05・18)
4. ラジオ放送「健康で長生きするために」(毎週日曜9:30~40)
5. 岩手日報紙「お電気ですか」の広告掲載(毎月最終火曜日)
6. 岩手県医師会・岩手日報健康セミナー(02・10・26)
7. 北海道・東北ブロック医師会広報担当理事連絡協議会(02・07・06)
8. 第56回東北医師会連合会総会各県担当者連絡協議会広報部門(02・09・22)
9. JA機関紙「LIVE」への寄稿(毎月発行)
10. NHK番組「@いわて」への出演

(NHK 盛岡放送局地方放送時間枠について)

#### 協議事項として

##### (1) 平成15年度事業計画について

1. いわて医報の充実
2. 対外広報活動の推進
3. 医療政策広報の支援
4. 報道機関との積極的交流

##### (2) 日報掲載記事「お元気ですか」について

##### (3) JA機関紙「LIVE」について

##### (4) NHK 情報番組「ママスタGOO健康百科」について

##### (5) いわて医報について

(6) その他 NHK番組「@いわて」は、平成15年3月までとなり、4月からは「ママスタGOO」とタイトルも内容も一新してはじめました。

岩手郡医師会関係として「いわて医報」への掲載予定は

5月号—巻頭言（高橋会長）

8月号—表紙（長谷川寛一Dr）

12月号—表紙（高橋副会長）

1月号—筆啓上（未定）

#### 勤務医部会の報告

岡田 行生

勤務医部会ではこの1年、新医師臨床研修についての対応、研修などが行われたが、厚労省は6月、臨床研修病院資格認定基準を緩和することにしたために岩手県ではほとんどの2次医療圏で地域中隔病院を中心に管理型研修病院として申請準備中である。

部会としては、7月12日水沢市において幹事会並びに水沢医師会勤務医部会会員懇談会が開催される予定である。

平成15年7月5日  
岩手郡医師会通常総会  
特別講演記録  
理事 紹野 敏昭



司会 高橋会長



演者 岩手県医師会会長  
石川育成先生

#### 「これからの医療の方向性」

演者 岩手県医師会会長  
石川 育成 先生

平成15年7月5日岩手郡医師会通常総会に引き続き、「これからの医療の方向性」と言うテーマで県医師会会長 石川育成先生から特別講演を賜った。

最初に日々増え続ける医療事故についての現状分析を詳細にかつ明快に示していただいた。日本医師会医師賠償責任保険制度の財政は逼迫しており、保険料の増額をしなければ破綻してしまうまでに至っている経過を図表を提示しながら説明があり、現行の5万5千円から7万円に引き上げられ、今年の7月から実施せざるをえないとのことである。医療行為は常に医療事故の危険と隣り合わせにあり、医師賠償制度に加入しておく備えをしておく必要性を繰り返し強調された。特に保険未加入の医師と共同で医療行為にあたった場合の事故が問題であり、賠償責任が生じた時はA会員が全て責任を負わなければならない事例が増えているとの指摘があった。さらに近頃メディアでも報じられたが医療事故における医師のリピーターの問題がある。医療事故に一回だけ関わった医師は全医療事故の74%。

2回の場合が18%、3回の場合が6%、4回の場合が1%である。生涯に1~2回巻き込まれるのは医療の不可抗力とも言え、いたしかた

がないとも言えるが3回、4回ともなるとこれは明らかに医師側に重大な問題が本質的にあると言わざるを得ないと強く警告された。

ついつい日常の忙しさに紛れてこう言ったことを忘れるがちな我々会員は、簡潔で説得力に満ちた石川会長のお話しにまさに身の引き締まる思いであった。

また近年の医療訴訟判決ではたとえ10年前の事例であっても、判決時の時点での医療水準を物差しとして判決が下されることが多いので十分注意するようにとのことである。医学・医療の知識、技術の進歩の速度がますます速くなっているのにこの事は医師側にとって不合理とも思えるが最新の医療水準に遅れをとらないよう日々の努力が必要であるということなのであろう。

2番目の内容は自浄作用活性化をどのように進めていくかというお話しで、現在作業を進めている叩き台について解説していただいた。

最後に今年の4月から導入された社保本人の3割負担によって保険支払い側の支出が3月に比して岩手県だけで10億円減少したことである。全医療機関でその対価の減収があったことになる。身の引き締まる思いから一転して、元気な張りのある石川会長の声が響いているうちはまだ気持ちが張りつめていたが、ご講演が終了して演者が壇上を降りたとたんに陰鬱なやるせのない気分になってしまった。

牽引役としての石川先生には、これからも我々岩手郡医師会の会員のみならず、日本医師会をそして日本の医療界をあるべき姿に導いて下さることをお願いしてご講演頂きましたことに心から感謝申し上げます。

## 『新しくなった心肺蘇生法』

西根町 嶋 信

西根地区の研修会として、久々に地区の拠点病院である町立西根病院会議室において、平成15年4月10日(木)午後7時より医科9名、歯科3名、パラメディカルスタッフ6名の参加のもと行われた。

座長の細井信夫先生(西根病院院長)の講師紹介のあと、岩手医大高次救急センターの菊地研

先生の講演を拝聴した。

冒頭、先に急逝された皇室の高円宮様の診断名が「心室細動」との発表であったが、これに對しては唯一有効な治療法は電気的除細動器(AED Automadet External Defibrillator)が必要であり、迅速に除細動する事が「いのち」を救うカギとなると述べられ、これからは今までの人工呼吸法による心肺蘇生法にぜひこのAEDによる方法を追加して、多くの「いのち」を救助してもらいたいと言われた。

心筋梗塞による死亡の場合、救急搬送する病院に到着前にすでに死亡しているのが約52%もあるという。その大部分は、心室細動という不整脈が原因で、突然心臓が停止します。その状態で救命救急センターに運ばれて助かるのは約5%にすぎない。

日本の救急隊員は、呼び出しがあってから平均約6分で駆けつけるが、心臓発作で心停止となつたとき、4分後には脳細胞が死んでしまう。このわずかな2分間が生死を分けることとなるため、その現場に居合わせた一般市民には、操作も簡単なこのAEDを使えるように指導してほしい。

またAEDを使用した場合5分後には50%の救命率があり、7分後には30%が助かるというデータもあります。また操作方法も極めて簡単であり、

- ①電源を入れる。
- ②電極パットを胸部の決められた場所へ貼る。
- ③心電図自動解析ボタンを押す。
- ④除細動ボタンを押す。

以上で反応がない場合は操作をくり返す。メンテナンスも不要で、誤作動せず、救助者は医学的知識がなくとも安心して安全に使用できるという。

実際にAEDを2台の模型人間を使用して当日参加の各人がそれぞれ実技指導を受けた。

参加者の多くの人がこんなに簡単なものであれば各病・医院の病棟に1台とか、各医療機関に1台は必要なのだろうかと思いながら帰途についた。でもまだ高価なもの一つではあるが、県内にたくさん普及すればもっともっと安価になるのであろうとの意見もあった。

貴重な体験をあちこちに普及することもわれわれの使命なのかもしれない。

# 第11回岩手県北周産期研究会報告

坂井 博毅

二戸市、久慈市、岩手郡の3都市医師会の周産期にたずさわる医師と助産婦、パラメデカルが持ち回りで、年に1度開催される岩手県北周産期研究会は今年11回目を迎え、久慈市で、県立久慈病院産婦人科科長、佐藤昌之先生、竹下産婦人科医院、竹下敏光先生のお世話で盛大に開催された。

## 2. 一般演題（午前3時40分～午後4時40分）

座長 県立久慈病院 高田 彰先生

(1) 「当院における40週以降の妊婦管理」 県立久慈病院 小原 剛先生

(2) 「多血症に対する臍帯血Htの信頼性」 県立福岡病院 関上 勇先生

(3) 「当院における新生児聴覚スクリーニングの現状」 竹下産婦人科医院 竹下 敏光先生



総合司会 県立久慈病院  
看護師長 佐藤京子さん



総合司会 県立久慈病院  
竹花美津子さん



座長 高田彰先生



演者 小原剛先生



演者 関上勇先生



演者 竹下敏光先生

座長 県立久慈病院 大石 君子

(4) 「産後、外陰部清潔の自己管理にむけて」 県立久慈病院 横濱 幸恵さん

(5) 「カンガルーケアにより愛着形成を確立できた母子の1例」 県立久慈病院 玉澤 明美さん

休憩（午後4時40分～午後4時50分）

## 3. 特別講演（午後4時50分～午後5時50分）

座長 県立久慈病院 産婦人科 佐藤 昌之先生

「小さなお産の家から」 お産の家 明日香医院 院長 大野 明子先生

大野明子先生は東大理学部宇宙学科卒業後、愛知医科大学医学部卒業という学歴です。御自身の出産経験から、これまでの分娩形式に女性として疑問をもたれた。医療側中心の分娩様式から患者様中心の人間性を重きをおき、可能な限り自然分娩をする事が出来る施設「お産の家 明日香医院」を開設された。分娩台を使用しないフリースタイル分娩を中心とした、手造りのお産、女医としての産婦様への深い思いやりと、人間味溢れる御自身の施設での分娩統計を紹介され多くの感銘を与えた。



座長 大石君子さん



司会 佐藤昌之先生



特別講演 大野明子先生



熱心に拝聴するフロア

## 4.懇親会「マリンホール」(午後6時00分～午後7時30分)



ツタンカーメン王の石棺

## 編集後記

- 平成15年度通常総会の報告を中心に会報が作成されました。会長先生を始め理事の先生方に原稿をお願いし、大変ご協力をいただいた。いつも通り、写真は柄内先生にお願いしたが、今回からはデジタルカメラで撮影し、CDに取り込んで送っていただいた。
- 表紙写真は数年前カイロ大学でのセミナーの際、ギザのピラミットとスフィンクスのライトアップ、音と光のショーで撮影したものです。砂漠の夜の怪しき光と心地よい夜風が今も忘れることができません。裏表紙の写真はツタンカーメンの王墓を訪れた際の王の石棺が安置されていた部屋です。
- 嶋先生からは西根町での研修会の報告をかなり前にいただきましたが、印刷が遅れて申し訳なく思います。
- 前号ではあまりの誤字誤植に小山先生から御親切なご指導を受けました。厚く御礼申し上げます。(坂井)